

1. 評価結果概要表

平成 20 年 6 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902595		
法人名	株式会社 緑ケアライフサービス		
事業所名	グループホーム 殿		
所在地	〒070-0026 旭川市東6条10丁目1-22 (電話) 0166-24-7277		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年4月22日	評価確定日	平成20年6月2日

【情報提供票より】 (20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 3 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	17人, 非常勤 1人, 常勤換算 4.1人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての1 ~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,600円	その他の経費(月額)	18,000円
敷金	有( )	無 暖房費 11月~3月 月	6,000円
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,260 円		

(4) 利用者の概要 (4月22日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	7名	要介護4	4名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 83.1歳	最低	72歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 沼崎病院・(医社) 榴積眼科・歯科医院・(医) 仁永会 旭川ファースト歯科クリニック・交遊会グループ(医) 愛生会病院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「殿」は、開設して1年が過ぎたところである。事業所内は明るく清潔で、広く開放的な居間、居室、台所、トイレ等も目配りが行き届く配置になっている。運営者の理念、方針が明確でありサービスに対する熱意が職員にも伝わっている。利用者本位の意思を大切に、その人らしい自由で誇りのある暮らしを続けることを管理者、職員が積極的に熱意をもって支援している。管理者と職員間の信頼関係も厚く、職員が一体となって利用者のよりよい暮らしの実現に取り組んでいる事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題とされた「ホーム便り」の発行、「金銭出納帳を家族に定期的に報告」については全職員で検討し、ホーム便りは1度であるが発行。今後定期的な発行を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を念頭に全職員が自己評価に取り組み、その内容を職員間で検証し管理者がまとめている。評価の意義を管理者、職員は理解し、日々のサービスを振り返りながら、ケアの見直しに繋げて行くよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会役員、家族、管理者、運営者が参加し、4ヶ月に1度会議を開催している。事業所の現況、利用者の状況、行事の報告などを議題として話し合いがもたれ、そこでの意見を運営に反映できるように取り組んでいる。また、会議録も詳細に残されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に、何でも気軽に話し合える雰囲気作りに配慮している。表出された意見、要望についてはミーティングで話し合い事業所の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の清掃活動などの行事に参加したり、近くの園児の訪問を受けたり、またクリスマス会には地域住民が寄って下さり、町内会婦人部の方々が料理の手伝いをして下さるなど、積極的に交流を図るとともに、事業所を理解してもらう機会となっている。今後は近隣住民の協力体制に期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自由」「共生」「尊厳」を大切に「その人らしさ」を尊重する理念を作り上げている。	○	パンフレットや理念の中に、地域の一員としての言葉をいれるなど、現理念を基盤に地域密着型サービスの役割を考えた、事業所独自の理念を作りあげることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は居間の目に付くところに掲示し、朝のミーティング時にはスタッフ全員で理念を唱復し、意識付けを図っている。ケアに迷った時には理念に立ち返り日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の清掃活動などの行事に参加したり、近くの園児の訪問を受けたり、又、クリスマス会には地域住民が寄って下さり、町内会の婦人部の方々が料理の手伝いをして下さるなど、積極的に交流を図っている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、各ユニットごとにミーティングを行い全職員で取り組んでいる。職員一人ひとりが、ケアを振り返る機会と捉えて改善に努めている。第三者の目線の重要性を理解し、外部評価の結果は、具体的に検討し改善に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の役員、利用者の家族、運営者、管理者などが出席し、4カ月に1度会議を開催している。事業所現況、利用者の状況、行事の報告などを協議し、内容も詳細に記録されている。参加者からの意見は運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する研修会などには積極的に参加している。市の担当者の理解もあり相談や助言を受けやすく、課題解決のための関係性ができている		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には声をかけ、利用者の暮らしぶりや、健康状態についてその都度連絡している。	○	お便りの発行が開設以来一度だけなので、定期的な発行が望まれる。遠方で面会の少ない家族には、個別にコメントをいれるなど事業所の暮らしぶりを伝える工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には、何でも気軽に話し合える雰囲気作りに配慮している。出された意見、要望についてはミーティングで話し合い事業所の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間の交流があり利用者・職員は馴染みの関係が出来ている。利用者へのダメージを防ぐために職員間の異動も抑えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員育成の重要性を認識し、外部研修への参加を積極的に促している。毎月のように職員は外部研修を受講している。受講職員は、研修報告書を提出し、会議時に発表し職員全体で共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークを通して、同業者同士の研修会、交流会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り入居前に、本人、家族に事業所見学機会を作って頂き、他の利用者と一緒に昼食をとるなど、事業所の雰囲気に馴染めるように家族と相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりが出来ることを大切にしながら、出来ない部分を支えている。利用者の生活暦から職員は学ぶ事も多く、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけたり、動作や表情から利用者の思いを受け止めて、その人らしく暮らし続ける支援に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々の生活や見守りの中で、本人、家族、職員からの情報を聞き取り、介護計画に反映させている。職員間のチームワークがよく活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画期間内に見直しを行っている。利用者の心身の状態変化や本人、家族の要望、現状に合わせた介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院介助、外出支援の送迎など、必要に応じて臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する主治医に、定期的に受診している。看護師職員が、利用者の日々の健康管理に気配りをしている。緊急時には適切な医療を受けられる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の医療連携体制はとれている。入居時に本人、家族と、重度化や終末期に向けた対応について、取り決めの書類が作成されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの性格や状況を把握して、言葉かけのタイミングを図り、利用者の誇りに配慮したケアを行っている。個人情報の管理には注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切にしながら、散歩、買い物など希望に沿った支援が行なわれている。利用者の生活暦や趣味を把握し、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を活かし、食材の準備、調理、後片づけを自分の役割として自然に振舞う方もいる。職員の栄養士が栄養バランス、カロリーに気配りして献立を作成している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴は決まっているが、出来る限り本人が希望する時間やタイミングに合わせて支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴、身体状況に合わせてながら、洗濯物たたみ、茶碗拭きなどその人の力を活かした支援をしている。喫茶室でコーヒーや紅茶を飲む楽しみ事の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の体調を考慮しながら、公園まで散歩したり、スーパーへ買い物に出かけたり、また玄関前のベンチで寛ぐなど、希望に沿った支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないことの大切さを理解し実践している。また、夜間帯は防犯上の理由から施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年一回行われているが地域住民の協力体制の確保までには至っていない。	○	職員の手薄となる夜間帯の災害対策が急務で地域住民の協力体制に期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量は細かく把握し一日の量が分かるように記録されている。利用者に合わせた食事の提供を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下、台所など広くゆったりとした造りになっている。各居室のドア壁には木製のドアチャームが設置されており、やさしい音とともに居心地よく過ごせる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具、調度品、家族の写真が飾られており、一人ひとりの個性的な居室づくりが工夫されており、安心して過ごされている。		

※  は、重点項目。